

(別紙6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年5月28日

【評価実施概要】

事業所番号	0793240011		
法人名	社会福祉法人 おおくま福寿会		
事業所名	グループホーム やすらぎの里		
所在地	福島県双葉郡大熊町大字夫沢字南台 1 5 2 - 2 (電 話) 0240-32-3822		
評価機関名	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会		
所在地	福島市渡利七社宮 1 1 1 番地		
訪問調査日	平成19年4月20日	評価確定日	平成19年5月30日

【情報提供票より】(平成19年3月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7 人, 非常勤 人, 常勤換算7 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造作りの平屋建て 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,650 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(平成19年3月31日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2		5 名	
要介護3		要介護4		1 名	
要介護5		要支援2			
年齢	平均 80.75 歳	最低 71 歳	最高 89 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人玉井医院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町の中心部から少し離れた海見える小高い丘の上にこのホームはある。すぐ隣には同法人の特別養護老人ホーム等が併設しており、町の高齢者福祉の中心拠点といえる状況にある。ホーム自体は開設してまだ1年間を経過したばかりであるが、管理者を中心に、法人としてのこれまでの運営(経営)のノウハウを活かした取り組みが見られた。特に、町全体(地域)とのつながりや関わり(交流)をととても大切にしており、利用者にとっては自宅を離れつつも安心のできる生活環境となっていた。また、裁縫や大工仕事、書道など、利用者一人ひとりの持っている力を活かした取り組みも随所に見られ、各々が生き生きとした生活を送っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回が地域密着型サービスでの初めての自己評価であったが、運営者や管理者、職員はその意義を理解し、管理者と介護リーダーを中心に全職員で自己評価に取り組んだ。また、その後、外部評価を待たずに早速具体的な改善を図った取り組みも見られた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5) ホームを開設して1年ということもあり、運営推進会議はまだ1回の開催に留まっているが、管理者はこの会議の意義を理解しており、具体的な取り組みはこれからという状況である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 事業所として苦情相談窓口を明確に設けており、家族等にも繰り返し伝えており、その際に少しでも運営に反映できるよう、意見や希望等を言いやすい環境(機会)作りに努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域とのつながりをとても大切に考えており、敬老会やふるさとまつりなど、町の行事に積極的に参加している。また、町の理容組合がボランティアで定期的にホームを訪れたり、毎日町内に買い物に出掛けたりと地元の人々との交流にも積極的に取り組んでいる。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	安心且つ安全な老後をこの住み慣れた地域で送ることができるようにと、「職員が代理家族となり、家庭的な雰囲気の中、利用者に安心と潤いある共同生活を提供する」という独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は毎日のミーティング等で理念の内容を必ず確認し、その共有に努めている。また、日々のケアの中では、温かい気持ちで“こんな時、家族だったらどうするだろうか？”と常に考えながら取り組むように心掛けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域とのつながりをとても大切に考えており、敬老会やふるさとまつりなど、町の行事に積極的に参加している。また、町の理容組合がボランティアで定期的にホームを訪れたり、毎日町内に買い物に出掛けたりと地元の人々との交流にも積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての自己評価と外部評価であったが、運営者や管理者、職員はその意義を理解し、管理者と介護リーダーを中心に全職員で自己評価に取り組んだ。また、その後、外部評価を待たずに早速具体的な改善を図った取り組みも見られた。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームを開設して1年ということもあり、運営推進会議はまだ1回の開催に留まっているが、管理者はこの会議の意義を理解しており、具体的な取り組みはこれからという状況である。	○	定期的に行なえるよう、今後の取り組みを積極的に進めてほしい。
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常の様子を撮った写真を含めた定期的なお便りや家族等の面会時、電話等により、利用者一人ひとりの様々な状況について随時報告している。特に面会時に見ることのできる写真集は見やすく、わかりやすくまとめられており、家族に好評のようである。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所として苦情相談窓口を明確に設けており、家族等にも繰り返し伝えている。また、最低でも月1回は家族等が面会に来てもらうようにしており、その際に少しでも運営に反映できるよう、意見や希望等を言いやすい環境(機会)作りに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1人の利用者に対して、“主担当と副担当”という2人担当制をとっており、職員の異動が生じた場合はそのいずれかが担当を継続できるような体制をとっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多くの様々な研修(案内)の中から、各職員が各々の段階に応じた研修が受けられるような体制がある。また、介護リーダーを中心とし、仕事を行いながらの実践教育(指導・助言)も行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「福島県グループホーム連絡協議会」に参加しており、他のホームと積極的に交流を図っている。またその中で教わることも多く、それらを早速取り入れるなどしてホームの質の向上に努めている。なお今後、ホームの相互訪問(実地研修)も検討している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	様々な日常の場面において、一人ひとりの利用者の思いを理解、共感できるよう、職員も一緒に行うように心掛けている。その中で、職員の知らないことに気づかされたり、時には職員が手伝ってもらったりと、支え合う関係作りに努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前から家族等より情報を得たり、日常の様々な生活場面でのコミュニケーションや行動などから、職員の気づきやミーティング等を通じ、利用者一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人の日常の状況把握や家族の面会時に話し合いをするなどして、本人の意向や家族等の意見を反映した介護計画を会議等を通じて全ての職員が関わりながら作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族の面会時や職員による会議等を通じ、定期的な見直しや状況の変化等は確認しているものの、計画書の作成(書き換え、家族等の署名含む)が不十分な状況にある。	○	介護計画に係る家族や職員間での話し合い等はできているので、その内容が反映されるよう計画書の作成(書き換え、家族等の署名含む)について検討してほしい。
3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前にかかりつけ医があり、希望された場合はそのまま継続して受診できるようにしている。また、受診（通院）は原則として家族等に行ってもらっているが、その際の情報（受診結果等）の報告を必ず受け、話し合える体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は入居継続対象外（退居）となることとしているが、このことは本人及び家族等に対し契約時に説明を行うとともに了承も得ている。また、これらのことを職員も理解している。なお、退居後の支援の相談に応じている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	食事や外出時（散歩）、排泄支援の場面など、各職員とも、利用者一人ひとりの状況に応じた適切な声かけ、働きかけが見られ、気になるようなことはなかった。また、個人情報に係る各記録や書類等の取扱いについても十分に配慮されていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのニーズ（希望等）はしっかりと把握しており、日常のあらゆる場面において個々のペースに応じた支援が行われていた。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1日のメニューは基本的にはホーム側で提供したものであるが、外食等も含め、利用者の希望も取り入れることはできる。また食事に係る食材の購入や準備、片付け等は利用者も交えて行い(当番制)、食事職員と一緒に楽しく摂っていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には利用者の希望を取り入れつつも、入浴に係る緊急対応や入浴日等について、本人や家族等とよく話し合いを行った上で入浴支援の内容を決めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者一人ひとりの生活歴等の把握はしており、裁縫や書道、野菜作り、大工仕事、食事の準備等、各々の気持ちや能力を活かした取り組みが行われていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	基本的には利用者一人ひとりの希望やその日の気持ちに添いながら、散歩や屋外作業(畑仕事や園芸等)、買い物、外食、花見会や白鳥見学などの小旅行的行事等、外出する機会を積極的に設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者を始め、各職員ともに鍵を掛けないケアの意味を理解しており、職員の見守りを徹底し、夜間以外は施錠していない。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者と職員一同に、あらゆる災害を想定した訓練を年2回、ホームを含む法人事業所全体で実施している。またその際は、地域の消防団の協力も得て行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分のおおよその摂取量は把握しており、日々の献立も管理栄養士に確認してもらうなど、栄養バランスについても配慮していた。また、疾病のある利用者に対応した献立も提供していた。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各共用空間は広く、照明の明るさや話し声、テレビの音量等、特に気になるようなことはなかった。また、四季に応じた手作りのタペストリーを飾ったり、椅子にはパッチワークのクッションがあったりと、居心地のよい落ち着いた空間が作られていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室ともに利用者本人の好む小物類を配置したり、飾り付けをしたりと、安心して過ごすことのできる居室作りが行われていた。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（別紙1）を添付すること。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム やすらぎの里

記入担当者名 藤原 輝美

評価結果に対する事業所の意見
特に無し

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目№を記入してから内容を記入してください。